



2021 (令和3年) 年8月11日 (水) 発

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 編集責任者: 幹事長 北村 匡 事務局長 住谷 昌宏

1	はじめに	1
2	応用生態工学会 第25回総会案内	2
3	応用生態工学会 第24回札幌大会 開催案内	2
4	第13期次期役員募集・推薦委員会報告	37
5	理事会・幹事会報告	38
6	2021年度行事経過と今後の予定	40
7	事務局より	41

1 はじめに

今年度2回目のニュースレターとなります。学会第24回札幌大会の開催案内、次期役員候補募集の報告など、学会の動きをお伝えします。

今年の応用生態工学会第24回大会は、9月21日(火)～25日(土)に札幌市民交流プラザ、札幌市教育文化会館において開催します。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。大会は、対面形式とオンライン形式の併用にて開催します。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、オンライン形式のみに切り替えます。

なお、参加申し込みの期限は9月10日(金)、参加費振り込みの期限は9月17日(金)です。大会運営をスムーズに行うため、早期の申し込みと振り込みにご協力をお願いします。会場定員には限りがあります。お早目のお申込みをお願いします。

2 応用生態工学会第 25 回総会案内

応用生態工学会第 25 回総会を下記のとおり開催いたします。正会員の皆様のご出席をお願いします。

第 25 回総会は、応用生態工学会第 24 回札幌大会期間中に開催します。

日 時：2021 年（令和 3 年）9 月 21 日（火） 10：10～11：10

場 所：札幌市民交流プラザ 3 階 クリエイティブスタジオ

なお、総会の成立には正会員の 1/5 以上の出席が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信・送付した委任状（電子メールまたはハガキ）に必要な事項を記入のうえ、**9 月 10 日（金）までに事務局までご返信くださいますよう**、お願いいたします。

総会資料は、9 月上旬にホームページ上で公開する予定ですので、ご確認ください。

（なお、新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催形式変更の可能性があります。）

3 応用生態工学会 第24回札幌大会 開催案内

応用生態工学会 第 24 回大会開催案内

2021 年（令和 3 年）9 月 21 日（火）～9 月 25 日（土）

第 25 回総会、第 24 回研究発表会・自由集会・公開シンポジウム・エクスカージョン・国際シンポジウム

1. 大会概要

応用生態工学会では、2021 年（令和 3 年）9 月 21 日（火）～25 日（土）に札幌市民交流プラザ及び札幌市教育文化会館による対面形式とオンラインを併用したハイブリッド型式にて、第 24 回札幌大会を開催します。

9 月 23 日（木祝）～24 日（金）に行われる研究発表会では、109 件の口頭発表（対面形式 60 件、オンライン発表 49 件）が行われます。また、7 件の自由集会が企画されています。

9 月 22 日（水）には、公開シンポジウム『自然の「恵み」と「災い」という矛盾の解決 ～気候変動下におけるグリーンインフラの役割～』を開催します。

環境変動は自然生態系とその恵みを駆動する重要な要素である一方、極端な変動は人間生活にとって災害という形で負の影響を与えます。気候変動が顕在化する今、後者に対してどのように適応するかは喫緊の社会的な課題です。気候変動下の治水・利水、土地管理方策、生態系保全に精通する専門家を国内外から招聘し、関連する事例、思想、そして技術を共有します。そして、各発表内容に基づき、パネルディスカッションを通じてテーマへの解決策を探り、我が国の土地利用や河川特性に合致した未来像の具現化に向けた議論を行います。このシンポジウムは公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

また、9 月 23 日（木祝）には国際シンポジウム『気候変動及び感染症研究の最前線－Leading-edge research of the impact of climate change on ecosystems and infectious diseases』を開催しま

す（国際シンポジウム委員主催）。近年、気候変動の影響が徐々に現れつつあり、気温の上昇はもちろんのこと、陸上生態系への影響、湖沼・海域などの水圏生態系への影響、雨の降り方の変化や、洪水の高頻度化、感染症などの健康影響など、気候変動の影響は多岐にわたっています。本国際シンポジウムにおいて、現在における気候変動影響に関する最先端の知見を集約し、共有します。

大会最終日の 9 月 25 日(土)には、札幌市の中心部を流れる豊平川を散歩するエクスカージョンを行います。都市河川の課題やサケの自然産卵環境の復元に対する取り組みをご案内します。

なお、本大会プログラムはすべて、建設コンサルタント協会継続教育（C P D）プログラムに申請予定です。

【大会スケジュール】

応用生態工学会 第24回 札幌大会

2021年	時刻	開催内容	参加定員	開催会場
9月21日 (火)	10:00～11:00	総 会 (総会後理事会・幹事会別室)	会場100名	札幌市民交流会クリエイティブスタジオ
	13:00～17:30	公開シンポジウム※1	会場100名, オンライン300名	
9月22日 (水)	9:00～	会場準備		札幌市教育文化会館 3F, 4F
	13:00～17:30	自由集会1日目	会場200名, オンライン600名	
9月23日 (木祝)	9:30～12:00	自由集会2日目	会場200名, オンライン600名	札幌市教育文化会館 3F, 4F
	13:00～17:00	研究発表会1日目		
	17:30～19:40	国際シンポジウム※2	オンライン500名	オンライン開催
9月24日 (金)	9:15～17:30	研究発表会2日目	会場200名, オンライン600名	札幌市教育文化会館 3F, 4F
9月25日 (土)	9:30～16:00	エクスカージョン	定員 20名	札幌市内 (豊平川さんぽ)

※1 公開シンポジウム

『自然の「恵み」と「災い」という矛盾の解決～気候変動下におけるグリーンインフラの役割～

※2 国際シンポジウム

『気候変動及び感染症研究の最前線』

Leading-edge research of the impact of climate change on ecosystems and infectious diseases

【会場】

- 総会：札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ (100 名)
- 公開シンポジウム：札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ (100 名) 及び zoom ウェビナー
住所：北海道札幌市中央区北 1 条西 1 丁目
- 国際シンポジウム：オンライン zoom ウェビナー
※札幌市教育文化会館の会場では公聴できません
- 研究発表会（対面発表）：札幌市教育文化会館 3 階・4 階 (200 名)
住所：北海道札幌市中央区北 1 条西 13 丁目
(オンライン発表)：zoom ミーティング
- エクスカージョン：札幌市内 豊平川 (20 名)
JR 苗穂駅集合～札幌市豊平川さけ科学館解散 (徒歩、移動距離約 10 km)

【大会日程】

●9 月 21 日 (火)

- ・第 24 回 総会

10:10～11:00 札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ

- ・公開シンポジウム

『自然の「恵み」と「災い」という矛盾の解決 ～気候変動下におけるグリーンインフラの役割～』

13:00～17:30 札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ

オンライン zoom ウェビナー

●9 月 22 日 (水)

- ・自由集会 A「魚カウンターによる魚類遡上数計測の試みの現状と課題」

13:00～ 札幌市教育文化会館 3 階 305 研修室

- ・自由集会 B「2019 年台風 19 号災害に対する応用生態工学会災害調査団報告」

13:00～ 札幌市教育文化会館 4 階 講堂

- ・自由集会 C「テキスト刊行委員会—河川汽水域テキスト刊行に向けて—」

15:30～ 札幌市教育文化会館 3 階 305 研修室

- ・自由集会 D「河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会」

15:30～ 札幌市教育文化会館 4 階 講堂

●9 月 23 日 (木祝)

- ・自由集会 E「2014 年御嶽山噴火以降の河川環境の現状と生物の営み」

9:30～ 札幌市教育文化会館 3 階 301 研修室

- ・自由集会 F「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？その 5

—水田水域における多様な生物の保全と再生—

9:30～ 札幌市教育文化会館 3 階 305 研修室

- ・自由集会 G「海岸生態系と海岸法を考える」

9:30～ 札幌市教育文化会館 4 階 講堂

- ・研究発表会

(対面発表)

13:30～17:00 札幌市教育文化会館 3 階 305 研修室

(オンライン発表)

13:30～17:00 札幌市教育文化会館 3 階 301 研修室、4 階 講堂

- ・国際シンポジウム

『気候変動及び感染症研究の最前線』

Leading-edge research of the impact of climate change on ecosystems and infectious diseases

17:30～19:40 オンライン開催

※札幌市教育文化会館の会場では公聴できません

●9 月 24 日 (金)

- ・研究発表会

(対面発表)

9:15～17:30 札幌市教育文化会館 305 研修室、4 階 講堂

(オンライン発表)

9:15～17:30 札幌市教育文化会館 3 階 301 研修室

●9 月 30 日 (土)

- ・エクスカーショ

9:30～16:00 札幌市内 石狩川水系豊平川

JR 苗穂駅～札幌市豊平川さけ科学館 (徒歩、移動距離約 10 km)

2. 公開シンポジウム

応用生態工学会第 24 回札幌大会公開シンポジウム

自然の「恵み」と「災い」という矛盾の解決 ～気候変動下におけるグリーンインフラの役割～

- ・開催日時：2021 年 9 月 21 日（火）13：00～17：30
- ・場 所：札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ
およびオンライン配信（zoom ウェビナー）

【開催趣旨】

環境変動は自然生態系とその恵みを駆動する重要な要素である一方、極端な変動は人間生活にとって災害という形で負の影響を与える。気候変動が顕在化する今、後者に対してどのように適応するかは喫緊の社会的な課題である。生態系の持つ機能を活用することを目指す”グリーンインフラ”は 1 つの解決策として注目され、概念的な枠組みの進展とともにその具体例が徐々に各地で蓄積されつつあるが一般社会への十分な情報発信は不足している。また、流域治水の思想や方針とグリーンインフラ、生態系・生物多様性の保全が両立するためにキーとなる観点の十分な整理も必要である。

本シンポジウムでは、気候変動下の治水・利水、土地管理方策、生態系保全に精通する専門家を国内外から招聘し、関連する事例、思想、そして技術を共有する。そして、各発表内容に基づき、パネルディスカッションを通じてテーマへの解決策を探り、我が国の土地利用や河川特性に合致した未来像の具現化を推進したい。

【プログラム】

① 趣旨説明

根岸 淳二郎（北海道大学大学院 環境科学院 准教授）

② オランダにおける気候変動を考慮した水災害対策とグリーンインフラ

Durk Riedstra（オランダ公共事業局 氾濫リスク管理分野 シニアアドバイザー）

Carina Verbeek（オランダ公共事業局 氾濫リスク管理分野 シニアアドバイザー）

③ 気候変動下における物理・統計的手法による確率雨量と洪水氾濫リスクの評価

山田 朋人（北海道大学大学院 工学研究院 准教授）

④ 気候変動下での我が国の水災害対策にとってグリーンインフラは効く薬か、苦い薬か、プラセボか？

藤田 光一（公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 所長）

⑤ グリーンインフラの価値を高める生態系管理

西廣 淳（国立環境研究所 気候変動適応センター 室長）

⑥ グリーンインフラの価値を高める空間計画

石山 信雄（独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 研究主任）

⑦ パネルディスカッション

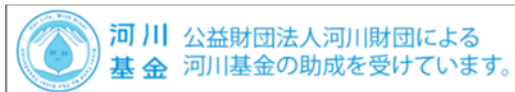
パネリスト：上記講演者 4 名

コーディネーター：中村 太士（北海道大学大学院 農学研究院 教授）

【参加費】 無料

【定 員】 会場参加：100名、オンライン参加：300名

【後援（予定）】 北海道開発局、北海道、札幌市



3. 国際シンポジウム

国際シンポジウム

「気候変動及び感染症研究の最前線」の開催について

Leading-edge research of the impact of climate change on ecosystems and infectious diseases

国際交流委員会

- ・開催日時: 2021 年 9 月 23 日 17:30~19:40
- ・場所: オンライン開催 (zoom ウェビナー)

【開催趣旨】

近年、気候変動の影響が徐々に現れつつある。気温の上昇はもちろんのこと、陸上生態系への影響、湖沼・海域などの水圏生態系への影響、雨の降り方の変化や、洪水の高頻度化、感染症などの健康影響など、気候変動の影響は多岐にわたる。

本シンポジウムではこれらのトピックについて国際的に活躍されている、Pie Müller 博士、真砂佳史博士、三浦郁修博士、David Hamilton 博士、風間聡博士の 5 名の専門家をお招きし、ご講演いただくこととなった。応用生態工学会が主催する国際シンポジウムにおいて、現在における気候変動影響に関する最先端の知見を集約し、共有したい。

【プログラム】

時間	内容
17 時 30 分～17 時 40 分	開会挨拶
17 時 40 分～18 時 00 分	Climate change、 environmental drivers and range expansion of invasive mosquitoes: implications for public health Pie Müller 博士 (Swiss TPH)
18 時 00 分～18 時 20 分	An unwanted by-product: infectious gastroenteritis following urban flooding in Asian megacities 真砂佳史 博士 (国立環境研究所)
18 時 20 分～18 時 40 分	Wastewater as an interface between environmental engineering and epidemiology 三浦郁修 博士 (愛媛大学/RIVM)
18 時 40 分～19 時 00 分	Water security in a changing world David Hamilton 博士 (Griffith University)

19 時 00 分～19 時 20 分	Impact and adaptation for flood in Japan under climate change 風間聡 博士 (東北大学)
19 時 20 分～19 時 35 分	総合討論
19 時 35 分～19 時 40 分	閉会挨拶

※オンラインの開催のみです。

研究発表会会場の札幌市教育文化会館での公聴はできません。

International symposium 2021 by ECES
Leading-edge research of the impact of
climate change on ecosystems and infectious diseases

応用生態工学会 令和3年度国際シンポジウム
気候変動及び感染症研究の最前線

日時 Date: September 23, 2021 17:30~19:40 JST
場所 Place: オンライン Online
参加費 Registration fee: なし free
申し込み Registration: <https://forms.gle/UAGnqewk8B7mni1T6>
講演者 Invited Speakers:
David Hamilton (Griffith University), Pie Müller (Swiss TPH),
So Kazama (Tohoku University), Yoshifumi Masago (NIES),
Fuminari Miura (Ehime University/RTVM)
主催 応用生態工学会 国際交流委員会

4. 自由集会

札幌大会では、7 件の自由集会が企画されています。

自由集会のみの参加は、学会員でなくとも参加できます。

場所：札幌市教育文化会館 3 階 301、305 研修室・4 階講堂

9 月 22 日 (水) 午後 2 会場 4 件

9 月 23 日 (木祝) 午前 3 会場 3 件

5. 研究発表会

札幌大会では、109 件の研究発表が対面形式 (60 件) とオンライン形式 (49 件) を併用したハイブリッド型式にて行います。

対面発表は、オンライン配信され、オンライン参加者の質疑応答が可能です。

オンライン発表は、会場に配信され、会場参加者も質疑応答が可能です。

場所：札幌市教育文化会館 3 階 301、305 研修室・4 階講堂

9 月 23 日 (木祝) 午前 3 会場 36 件 (対面 12 件、オンライン 24 件)

9 月 24 日 (金) 午前・午後 3 会場 73 件 (対面 48 件、オンライン 25 件)

応用生態工学会 第24回 札幌大会

研究発表会・自由集会のタイムテーブル

		札幌市教育文化会館					
		3階			4階		
		301 研修室		305 研修室		講 堂	
部屋割り		発表会場1		発表会場2		発表会場3	
座席数		135		156		156	
会場定員目安 (1/2席数程度)		65		75		75	
9月22日 水	9:00～	準備		準備		準備	
	12:00～						
	13:00～15:00			自由集会A 魚道カウンター		自由集会B 台風19号災害調査団	
	15:30～17:00			自由集会C テキスト汽水域		自由集会D データベース	
9月23日 木祝	9:30～11:30	自由集会E 御嶽山		自由集会F 水田		自由集会G 海岸	
	11:30～13:00	(委員会)		(委員会)		(委員会)	
	13:30～15:00	オンライン発表-OA 魚類・ハビタット	5	対面発表-FA GI・防災・減災	5	オンライン発表-OC 鳥類・両生類	5
	15:00～17:00	オンライン発表-OB 底生生物	7	対面発表-FB 魚類分布	7	オンライン発表-OD 環境DNA	7
9月24日 金	9:15～10:45	オンライン発表-OE GI・環境保全	5	対面発表-FC 魚類・ハビタット	5	対面発表-FG 水生植物・付着藻類	5
	10:45～12:30	オンライン発表-OF 魚類分布	6	対面発表-FD モニタリング技術・評価	6	対面発表-FH 底生生物	6
	12:30～13:30						
	13:30～15:00	オンライン発表-OG モニタリング技術・評価	5	対面発表-FE 干潟	5	対面発表-FI 河川植生	5
	15:00～17:30	オンライン発表-OH ダム湖・ダム下流	9	対面発表-FF 環境DNA	8	対面発表-FJ 鳥類・哺乳類	8

6. 賛助会員展示

賛助会員等による企業紹介、技術紹介等の展示を行います。

場所：札幌市教育文化会館 4 階 402 研修室・403 研修室（談話室として使用します）

期間：9 月 22 日（水）13:00 ～ 24 日（金）17:00

【機材・技術等の展示】

企業名	機材・技術の紹介
株式会社 地域環境計画（賛助会員）	鳥獣被害対策用品等
極東貿易 株式会社	レーザー計測システム LMS1.0 (鳥の飛翔位置/軌跡を計測する)
株式会社 田中三次郎商店	調査機器，発信器，生物用標識

上記、機材・技術等の展示のほか、賛助会員および札幌大会実行委員が所属する企業・団体の案内、技術紹介資料および求人資料を展示・配架するコーナーを設けます。

賛助会員サービスの一環として、応用生態工学会第 24 回札幌大会において企業・団体の案内（パンフレット）や技術資料および求人資料の配架を募集します。無料です。

【賛助会員企業団体の案内】

参加を希望する企業・団体は、8 月 31 日（火）17:00 までに「賛助会員案内希望」と明示し、

①企業・団体名、②展示内容（種別）、③担当者氏名・連絡先（e-mail アドレス、電話番号）を下記の申し込み先メールアドレス宛にお送りください。

配架資料は、最大 200 部程度、事前に郵送ください。郵送先はあらためてご連絡します。

企業展示発表申込先（札幌大会事務局）：sapporo2021@ecesj.com

7. 写真展

札幌大会実行委員または所属する企業・団体の方が現地調査時等で撮影した北海道の動植物の写真展を行います。

「北海道の動植物の写真展（仮）」

場所：札幌市教育文化会館 4 階 ギャラリー

期間：9 月 22 日（水）13:00 ～ 24 日（金）17:00

8. 懇親会

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、懇親会は行いません。

9. エクスカーション

応用生態工学会第 24 回札幌大会 エクスカーション

『豊平川さんぽ』

●開催趣旨

人口 197 万人を擁する札幌市の中心部には、全国でも有数の急流河川である豊平川が南北に縦断している。豊平川はサイクリング、ジョギングや魚釣りなど札幌市民に憩いの場となっている。川の中に目をむけると豊平川で生まれたサケの自然産卵が行われるなど稀有な環境を有する。一方で都市河川が有する様々な課題を抱えており、研究機関、行政をはじめ市民団体などの各主体が課題解決のために日々腐心している環境でもある。

本エクスカーションは、全国の応用生態工学関係者に豊平川の現状や取り組み内容を共有してもらうとともに、コロナ禍におけるエクスカーション開催の意義を感じてもらえるきっかけとなることを願い開催するものである。

●開催日時 2021 年 9 月 25 日（土） 9:30～16:00

●移動手段 徒歩（移動距離約 10km；午前 2.7km，午後 7.1km）

●昼食場所 豊平川の河川敷（河原）

●募集人数 20 名（正会員・賛助会員に限ります。応募者多数の場合は先着順）

●参加費 2000 円を想定（お弁当+レクリエーション保険代）

※少雨決行（雨天の場合は雨天時プログラムにより実施予定、荒天時は中止）

※雨天時プログラム：さけ科学館見学、豊平川河床低下箇所見学（昼食後解散）

※雨天時プログラムへの移行は、前日 14 時頃に判断後、参加者予定者にメール等で周知

※荒天時（開催 4 日前の段階で、大雨や洪水警報が発出される可能性が高い場合）は中止

中止の場合、参加者予定者にメール等で周知します。

※マスクの着用、出発前の検温、手指の消毒を実施

※途中離脱可能（各自で近隣のバス・地下鉄やタクシー等を利用頂きます。）

※長距離の徒歩移動となることから、動きやすい服装、履き慣れた運動靴でお越しいただくとともに、雨具（レインウェアが望ましい）をご持参下さい。

●解説者（予定）

（五十音順）

- ・有賀望（札幌市豊平川さけ科学館）
- ・川村里実（国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム）
- ・久加朋子（富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科）
- ・中村慎吾（札幌市豊平川さけ科学館）
- ・根岸淳二郎（北海道大学 地球環境科学研究院）
- ・ほか、「札幌ワイルドサーモンプロジェクト（SWSP）」メンバー

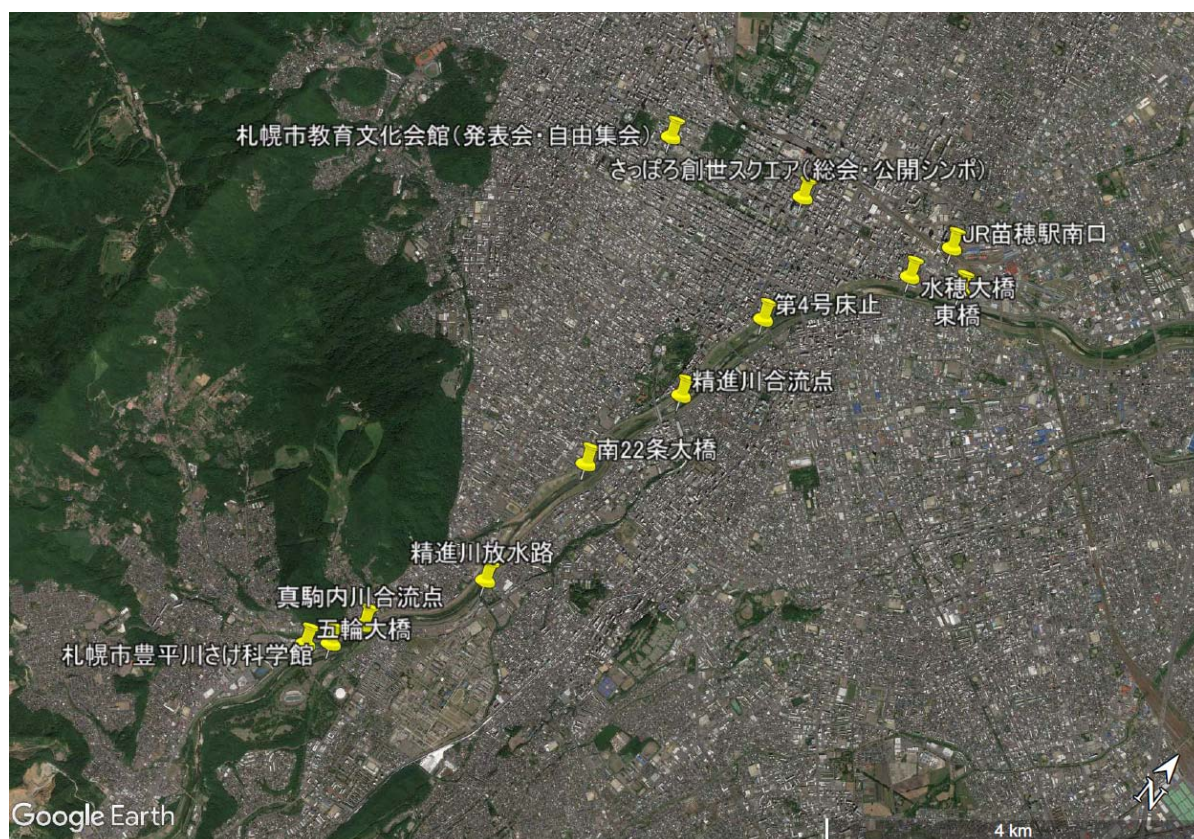
<https://www.sapporo-wild-salmon-project.com/>

●行程表

時刻	所要 時間	見学箇所 (移動距離)	見学内容(案)※変更有
9:30	—	JR 苗穂駅南口集合	(検温・手指消毒, 注意事項等事務連絡)
—	10min	(移動 0.5km)	—
9:40~10:50	70min	平和大橋~東橋 右岸	・ 豊平川の地形の特徴 ・ 洪水対策のための砂州切り下げ箇所 ・ サケ産卵環境への配慮事項 ・ 豊平川の湧水について
—	10min	(移動 0.5km)	—
11:00~11:30	30min	水穂大橋右岸	・ サケ産卵環境復元のための水路掘削箇所 ・ 豊平川のサケの歴史 ・ 魚類相調査ほか
—	15min	(移動 0.7km)	—
11:45~12:00	15min	でんでん橋	・ 大規模出水による河床変動
—	20min	(移動 1.0km)	—
12:20~13:00	40min	第 4 号床止	・ 昼食 (北海道らしいお弁当+お茶)
13:00~15:00	120min	(移動 1.8km)	—
		精進川合流点	・ サクラマス遡上産卵河川の概説
		(移動 1.3km)	—
		南 22 条大橋	—
		(移動 1.4km)	—
		精進川放水路	—
		(移動 1.5km)	—
		真駒内川合流点	・ 河床低下による合流点落差の現状
—	—	(移動 0.7km)	—
15:00~15:20	20min	五輪大橋	・ 露岩化の現状
—	10min	(移動 0.4km)	—
15:30	30min	札幌市豊平川さけ 科学館	・ 館内見学
16:00	—	解散	—

●位置図

エクスカーション見学個所



10. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会および札幌大会ホームページの「参加申込」もしくは必要事項を記入のうえ、E-mail 送信によりお申込みください。

参加申込期限は 9 月 10 日（金）、参加費の振込期限は 9 月 17 日（金）です。

公開シンポジウム、研究発表会の会場参加およびエクスカージョンは新型コロナウイルス感染症対策のため、定員に限りがあります。定員になり次第締め切ります。

参加申込み : https://confit.atlas.jp/guide/event/eces2021/static/registration_jap

E-mail によるお申込は、参加申込み事項をご記入のうえ、下記までお申込ください。

札幌大会事務局 : sapporo2021@ecesj.com

【参加費】

〔1〕研究発表会

会員(正会員・賛助会員) : 6,000 円, 非会員 : 10,000 円(要旨集冊子版別売),

学生(会員・非会員) : 3,000 円

※参加費には講演要旨集が含まれていません。講演要旨集(冊子版)の希望の方は、3,000 円(税込み・送料込み)で販売します。なお、講演要旨集(PDF 版)は、学会および札幌大会ホームページで公開します。

〔2〕エクスカージョン

会員(正会員・賛助会員) : 2,000 円(参加費 1,000 円、昼食代 1,000 円)

昼食は秋の北海道らしいお弁当をご用意します。

※定員が少数(20 名)のため学会員のための参加となります。

〔3〕事前振込のお願い

受付の混雑緩和、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加費の振込にご協力いただきますようお願いします。当日現金での支払いは基本的に受けません。

【参加料振込先】

〔1〕銀行振込口座

銀行名 : 三菱東京 UFJ 銀行麹町中央支店

口座番号 : (普通)1302920

〔口座名称〕応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

〔2〕郵便振替口座

口座番号 : 00140-7-404275

口座名称 : 応用生態工学会

11. お問い合わせ先

札幌大会事務局

Email: sapporo2021@ecesj.com

(応用生態工学会事務局)

Email: eces-manager@ecesj.com

【応用生態工学会 第 24 回札幌大会 申込み事項】

(ふりがな) 氏 名			会員No.(正・学生・賛助)	
所 属				
連絡先 (自宅・所属)	〒 住所 Tel e-mail:			
参加申込			参加費(必要箇所)に✓)	
総 会	9月21日(火)	参加・不参加	無 料 □ 会場(100名) ※定員になり次第締め切ります	
公開シンポジウム	9月21日(火)	参加・不参加	無 料 □ 会場(100名) □ オンライン(最大500名) ※定員になり次第締め切ります	
研究発表会 (発表要旨集代除く)	9月23日(木祝)ー24日(金)	参加・不参加	□ 会員(6,000円) □ 非会員(10,000円) □ 学生(会員・非会員)(3,000円) □ 会場(200名) □ オンライン(最大600名) ※定員になり次第締め切ります	
エクスカージョン	9月25日(金)	参加・不参加	□ 正会員・賛助会員(1,000円) □ お弁当 (1,000円) ※定員20名、定員になり次第締め切ります	
発表要旨集 (学会ホームページで発表要旨集PDFを公開します。冊子版を1冊3000円で販売します。)			冊 冊 □ 会場受け取り □ 郵送(送料込み)	
参加費の合計			合計	円
連絡事項	※参加費は、振込にてお願いします。当日現金でのお支払いは基本的に受け付けません。 ※自由集会のみ参加はオンライン参加に限り無料です。会場定員に制限がありますので研究発表会会場参加者を優先します。 受付混雑の緩和、コロナ禍による受付での対面をできるだけ避けるため、事前振込にご協力ください。 請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。			

参加申込み：札幌大会ホームページ

https://confit.atlas.jp/guide/event/eces2021/static/registration_jap

※申込みフォームを利用ください。

申込みフォームの入力・送信できない場合のみ、参加申込み事項をご記入のうえ、下記までお申込ください。学会本部への FAX の申込み受け付けておりません。

札幌大会事務局 sapporo2021@ecesj.com

件名 札幌大会参加申込み

- ・氏 名 (ふりがな) :
- ・所 属 :
- ・連絡先 (住所, 電話番号, E-mail)
- ・総 会 : 出席 / 欠席
- ・公開シンポジウム : 会場参加 / オンライン参加 / 不参加
- ・研究発表会 : 会場参加 / オンライン参加 / 不参加
- ・エクスカージョン : 参加 / 不参加
- ・要旨集 (冊子版) : # 冊 (会場受取り / 郵送) / 購入しない
- ・連絡事項 :

※国際シンポジウムは別途、専用申込みフォームでお申込みください。

－ 会場へのアクセス －



❶ 令和3年9月21日（火）＜総会，公開シンポジウム＞

【会 場】 さっぽろ創世スクエア 札幌市民交流プラザ 3階(クリエイティブスタジオ)
(<https://www.sapporo-community-plaza.jp/>)

【所 在 地】 札幌市中央区北1条西1丁目

【アクセス】 「さっぽろ創世スクエア 札幌市民交流プラザ」には地下に駐車場がありますが，有料となります．来場にあたっては下記の交通機関もご利用ください．

➤[JR]札幌駅南口より徒歩約10分

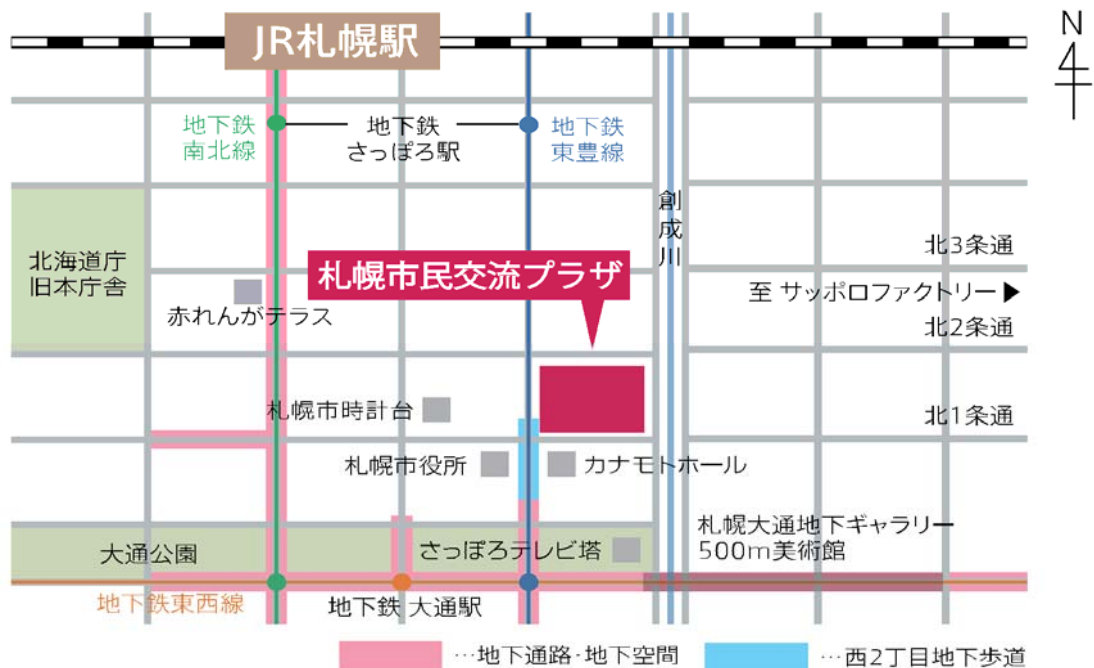
➤[地下鉄南北線・東西線・東豊線]大通駅※1より徒歩約5分

※1 地下通路・地下空間を30番出口に向かい，西2丁目地下歩道を通して直通．

➤[市電]西4丁目駅より徒歩約12分

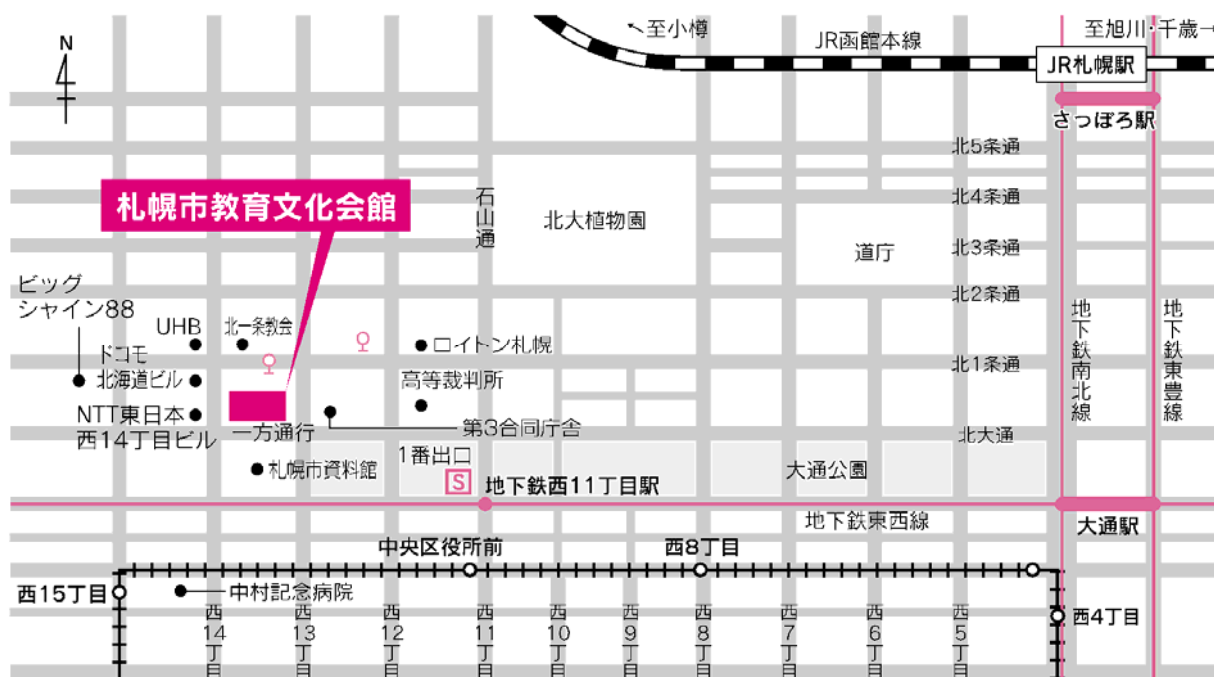
➤[ジェイ・オール北海道バス]時計台前停留所※2より徒歩約2分

※2 JR札幌駅のバスターミナルにおいて，"55系統"又は"57系統"等のバスに乗車．



[図引用]：「札幌市民交流プラザ」HPのイベントスケジュール機関紙「PLAS（プラス）」のアクセスマップ

※3 JR札幌駅のバスターミナルにおいて、「札幌～小樽：円山経由」線等のバスに乗車。



－ 会場案内 －

【札幌市教育文化会館：研究発表会・自由集会発表等会場】

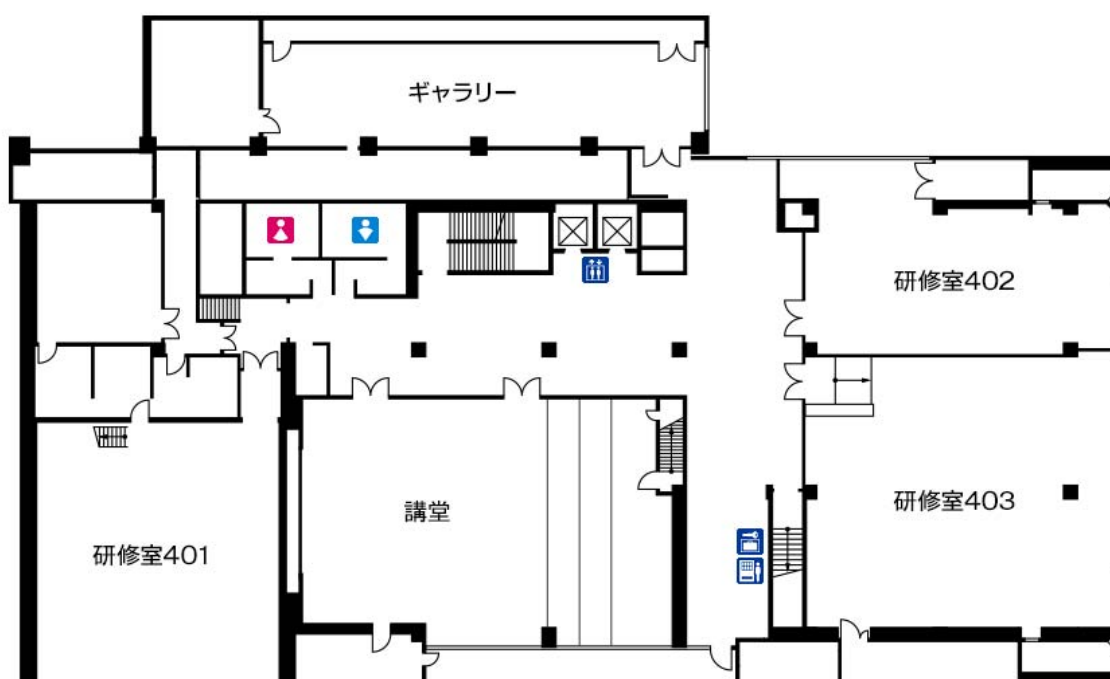
2021 年 9 月 22 日（水）～24 日（金）

札幌市教育文化会館 3 階・4 階

3階



4階



－ プログラム・会場対応表 －

	302 研修室	303	304	301 研修室	305 研修室	講堂	401	402	403	ギャラリー
部屋割り	受付 クローク	控室 学会本部	控室	発表会場1	発表会場2	発表会場3	委員会	談話室1	談話室2	写真展
座席数	72席	24席	24席	135 65	156 75	156 75	72	54	84	
会場定員目安 (1/2席数程度)										
9月22日 水 9:00～	準備	準備	準備	準備	準備	準備	(委員会)	準備	準備	準備
12:00～	受付									
13:00～15:00					自由集会A 魚道カウンター	自由集会B 台風19号災害顕彰団		談話室	談話室	写真展
15:30～17:00					自由集会C テレスト汽水域	自由集会D データベース		企業展示	企業展示	北海道の動植物
9月23日 木祝 9:30～11:30	9:00～受付			自由集会E 御嶽山	自由集会F 水田	自由集会G 海岸		談話室	談話室	写真展
11:30～13:00				(委員会)	(委員会)	(委員会)	(委員会)	企業展示	企業展示	北海道の動植物
13:30～15:00				オンライン発表-OA 魚類・ハビタット	対面発表-FA GI・防災・減災	オンライン発表-OC 鳥類・両生類				
15:00～17:00				オンライン発表-OB 底生生物	対面発表-FB 魚類分布	オンライン発表-OD 環境DNA				
9月24日 金 9:15～10:45	9:00～受付			オンライン発表-OE GI・環境保全	対面発表-FC 魚類・ハビタット	対面発表-FG 水生植物・付着藻類		談話室	談話室	写真展
10:45～12:30				オンライン発表-OF 魚類分布	対面発表-FD モニタリング技術・評価	対面発表-FH 底生生物		企業展示	企業展示	北海道の動植物
12:30～13:30										
13:30～15:00				オンライン発表-OG モニタリング技術・評価	対面発表-FE 干潟	対面発表-FI 河川植生				
15:00～17:30				オンライン発表-OH ダム湖・ダム下流	対面発表-FF 環境DNA	対面発表-FJ 鳥類・哺乳類				

— 研究発表会プログラム —

【研究発表会・一般講演内容(対面発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

対面発表 9月23日(木) —1日目— 13:30~17:00 [会場:305]

セッションFA GI・防災・減災

- 13:30 FA-1 **洪水流出解析モデルによる流域スケールの洪水攪乱特性分析の試行: 研**
○原田守啓(岐阜大学)
- 13:45 FA-2 **霞堤の介在による洪水調整効果と水田生態系の重要性: 研・審**
○山田由美(慶應義塾大学)・瀧健太郎(滋賀県立大学)・吉田丈人(総合地球環境学研究所/東京大学)・出口智広(兵庫県立大学)・一ノ瀬友博(慶應義塾大学)
- 14:00 FA-3 **河川合流部の形態と河道内の多様性の検討—木曾三川を例として—: 研・審**
○横山綾華(岐阜大学)・原田守啓(同)・永山滋也(同)
- 14:15 FA-4 **谷津景観における農地整備に伴う排水路整備による洪水流への影響の評価: 研・審**
○大槻順朗(山梨大学)・西廣淳(国立環境研究所)・加藤大輝(東邦大学)
- 14:30 FA-5 **黒川遊水地群の生物相評価及び氾濫原依存種生育生息場としての機能を持続するための管理手法に関する研究: 研・審**
○山中綾乃(熊本大学)・皆川朋子(同)

セッションFB 魚類分布

- 15:00 FB-1 **水生生物の生息環境を指標する「さとがわ指数」の開発とその応用—魚類の分布解析を例に—: 研・審**
○東川航(土木研究所)・末吉正尚(同)・森照貴(同)・米倉竜次(岐阜県水産研究所)・中村圭吾(土木研究所)
- 15:15 FB-2 **木曾三川流域における水温レジームと魚類の分布パターン: 研・審**
○末吉正尚(土木研究所)・石山信雄(北海道立総合研究機構林業試験場)・JorgeGarciaMolinos(北海道大学)・中村圭吾(土木研究所)
- 15:30 FB-3 **氾濫域の魚を守る！洪水マップを活用した新たな保全指標: 研**
○水野敏明(滋賀県琵琶湖環境科学センター/総合地球環境学研究所)・瀧健太郎(滋賀県立大学/総合地球環境学研究所)・酒井陽一郎(滋賀県琵琶湖環境科学センター)・中尾博行(琵琶湖博物館うおの会)
- 15:45 FB-4 **日本全国の河川におけるコクチバスの空間分布予測: 研・審**
○松澤優樹(土木研究所)・森照貴(同)・中村圭吾(同)
- 16:00 FB-5 **豪雨による大規模攪乱が魚類に及ぼす影響要因とその後の回復に及ぼす要因 に関する研究 —2017 年九州北部豪雨災害を対象として—: 研・審**
○富重幹太(熊本大学)・皆川朋子(同)
- 16:15 FB-6 **淀川大堰のゲート操作による新旧淀川への分派量がアユ仔魚の降河に与える影響: 研・審**
○高橋京輔(大阪工業大学)・田中耕司(同)・瀬口雄一((株)建設技術研究所)・竹門康弘(京都大学)・角哲也(同)
- 16:30 FB-7 **淀川本川のワンド魚類群集の経年変化: 事**
○神崎裕伸(公益財団法人河川財団近畿事務所)・日下慎二(国土交通省近畿地方整備局)・竹門康弘(京都大学)

対面発表 9月24日(金)ー2日目ー 9:15～12:30 [会場:305]

セッションFC 魚類ハビタット・産卵場

- 9:15 FC-1 **グリーンレーザー測量を利用した土砂還元に伴う物理環境変化と魚類生息環境の影響解析: 研・審**
○大島正憲(八千代エンジニアリング(株))・坂口幸太(同)・松浦崇裕(同)・有田由高(国土交通省四国地方整備局)
- 9:30 FC-2 **厚真川におけるシシャモ産卵場適地について: 研・審**
○加藤康充(株建設環境研究所)・久加朋子(富山県立大学)・山口里実(土木研究所)・富田邦裕(株建設環境研究所)・今日出人(株ドーコン)・清水康行(北海道大学)
- 9:45 FC-3 **大都市の扇状地河川におけるサケの産卵特性と自然再生産: 研**
○有賀望(札幌市豊平川さけ科学館)・森田健太郎(北海道大学)・中村太士(同)
- 10:00 FC-4 **捕獲によらないアユの体長推定方法に関する検討: 研・審**
○金尾充浩(西日本技術開発(株))・近藤卓哉(同)・春原彩花(信濃毎日新聞社)・永田新悟・阪田和弘(西日本技術開発(株))・竹下直彦(水産大学校)
- 10:15 FC-5 **なわばりアユが好む環境とは?: 環境因子による工学的評価に関する考察: 研・審**
溝口裕太○(土木研究所), 宇佐美将平(筑波大学), 小野田幸生(応用地質(株)), 田代喬(名古屋大学), 宮川幸雄(土木研究所), 中村圭吾(土木研究所)

セッションFD モニタリング技術・評価

- 10:45 FD-1 **選択型実験を用いた知床でのエコツーリズムにおける潜在需要の評価: 研・審**
○礎有希(徳島大学)・河口洋一(徳島大学)・寺山元(一般社団法人知床しゃり)・渡辺公次郎(徳島大学)・佐藤雄大(徳島大学)
- 11:00 FD-2 **ミャンマーの環境政策(ABSを中心に)とその現状**
○藤野毅(埼玉大学)・朝比奈はるか(防衛医科大学)・和田美貴代(熊本大学)・藤川和美(高知県牧野記念財団)・アウンナンダ(ミャンマー環境アセスメント協会)
- 11:15 FD-3 **事業計画の改定の積み上げによる順応的管理の模索 ―森林再生のための自然再生事業実施計画の改定―: 事**
○渡辺修(さっぽろ自然調査館)・渡辺展之(同)・印南陽子(環境省釧路自然環境事務所)
- 11:30 FD-4 **水のネットワークを考慮した小中河川における自然再生地の評価: 研・審**
○後藤颯太(帯広畜産大学)・赤坂卓美(同)
- 11:45 FD-5 **声紋の画像解析によるコオロギ類の鳴き声検出法の開発: 研・審**
○中岡佳祐(北海道大学)・山田浩之(同)
- 12:00 FD-6 **応用生態工学会仙台「仙台湾南部海岸プロジェクト」の活動報告Ⅱー昆虫班調査結果(2019年調査)についてー: 事**
○三宅孝明(株建設環境研究所)・町田禎之(同)・沼沢信一(同)・川崎敦(同)

12:30～13:30 ― 休憩 ―

対面発表 9月24日(金)ー2日目ー 13:30~17:30 [会場:305]

セッションFE 干潟

- 13:30 FE-1 **多波長イメージ分光放射計による干潟のリモートセンシングの試験研究: 研**
○仁木将人(東海大学)・丹佑之(同)・田中明彦(同)・加藤茂(豊橋技術科学大学)
- 13:45 FE-2 **CVIによる底泥有機物の酸化還元特性に関する考察: 研・審**
○高橋巧(広島大学)・日比野忠史(同)
- 14:00 FE-3 **浚渫泥を用いた干潟の造成と維持管理: 研・審**
○弓岡亮太(広島大学)・日比野忠史(同)
- 14:15 FE-4 **石炭灰造粒物を混合した浚渫泥の利用技術の開発: 研・審**
○岡田卓(広島大学)・日比野忠史(同)
- 14:30 FE-5 **一般廃棄物由来の溶融スラグを使った干潟の造成実験: 研・審**
○行富初(東海大学)・仁木将人(同)・石川智士(同)・津田颯太(同)・矢吹晴一郎(静岡市環境局環境保健研究所)

セッションFF 環境DNA

- 15:00 FF-1 **環境DNAサンプルの保存方法に関する検討 第一報: 研**
○村岡敬子(土木研究所)・北川哲郎(㈱建設環境研究所)・相島芳江(土木研究所)・雨貝則子(同)・篠原隆佑(同)・菅野一輝(同)・中村圭吾(同)
- 15:15 FF-2 **環境DNAメタバーコーディングに影響を与える水質条件の検討: 研**
○菅野一輝(土木研究所)・北川哲郎(㈱建設環境研究所)・村岡敬子(土木研究所)・篠原隆佑(同)・天羽淳(国土交通省水管理国土保全局)・中村圭吾(土木研究所)
- 15:30 FF-3 **長良川流域におけるアユの時空間動態と水温の関係～温暖化影響の予測に向けて～: 研**
○永山滋也(岐阜大学)・末吉正尚(土木研究所)・藤井亮吏(岐阜県水産研究所)・原田守啓(岐阜大学)
- 15:45 FF-4 **長良川扇状地区間における複数年にわたるアユ時空間分布の把握: 研・審**
○鈴木崇史(岐阜大学)・加藤大暉(大日コンサルタント㈱)・原田守啓(岐阜大学)・永山滋也(同)・石黒泰(同)
- 16:00 FF-5 **環境DNAを用いた魚類相調査における最適な地点設定の検討: 研・審**
○篠原隆佑(土木研究所)・村岡敬(同)・菅野一輝(同)・北川哲郎(㈱建設環境研究所)・天羽淳(国土交通省水管理国土保全局)・堀江隆生(国土交通省中部地方整備局)・中村圭吾(土木研究所)
- 16:15 FF-6 **魚道における採捕調査と環境DNAを用いた魚類調査との比較について: 研・審**
○奥富誠(東日本旅客鉄道㈱)・榎本拓(同)・木伏宏俊(同)・川崎誠(㈱建設技術研究所)・山田規世(㈱CTIリード)・加藤秀男(同)
- 16:30 FF-7 **天竜川下流域における環境DNAを用いたアユ産卵床の分布傾向の把握: 研・審**
○高橋真司(東北大学)・上原孝仁(愛媛大学)・渡辺幸三(同)・角哲也(京都大学)・竹門康弘(同)
- 16:45 FF-8 **半水生哺乳類ニホンカワネズミの生息地推定に対する環境DNA法の検討: 研・審**
○塩塚菜生(奈良女子大学)・中村匡聡(いであ㈱)・土居秀幸(兵庫県立大学)・片野泉(奈良女子大学)

対面発表 9月24日(金)ー2日目ー 9:15~12:30 [会場:4階講堂]

セッションFG 水生植物・付着藻類

- 9:15 FG-1 **ダム下流域における小規模出水時の置砂による河床付着藻類の剥離に対する効果: 研・審**
○福田悠太(日本工営(株))・三好文(同)・佐々木英代(同)・福嶋悟(藻類研究所分析センター)・唐澤浩光(国土交通省関東地方整備局)
- 9:30 FG-2 **付着藻類の現存量に対する礫中間径, 水深, 流速の相対的な重要度: 研・審**
○宮川幸雄(土木研究所)・溝口裕太(同)・田代喬(名古屋大学)・中村圭吾(土木研究所)
- 9:45 FG-3 **淀川におけるオオバナミズキンバイ除去手法の開発とその効果と今後の課題: 研・審**
○瀬口雄一(㈱建設技術研究所)・佐藤大生(同)・兼頭淳(同)・八木和則(同)・日下慎二(国土交通省近畿地方整備局)・弓場茂和(同)
- 10:00 FG-4 **特定外来生物指定の水陸両生外来植物オオバナミズキンバイの国内における分布と防除対策の現状: 事**
○中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・林紀男(千葉県立中央博物館)・横川昌史(大阪市立自然史博物館)・嶺田拓也(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)・日鷹一雅(愛媛大学)・上河原献二(滋賀県立大学)・野間直彦(同)・伊藤彩乃(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)・稗田真也(豊橋市自然史博物館)
- 10:15 FG-5 **沈水植物が繁茂する流路における横断面の流速分布: 事**
○櫻井善文(㈱ドーコン)・永田優(同)

セッションFH 底生生物

- 10:45 FH-1 **矢作川上流における河床下間隙動物(特にコナガカワゲラ属)の生息環境: 研・審**
○杉江俊城(愛知工業大学)・内田臣一(同)・宇佐見亜希子(同)
- 11:00 FH-2 **年による融雪氾濫規模の相違が氾濫原水域生物群集に与える影響: 研・審**
○宇野裕美(北海道大学)・森田健太郎(同)・内海俊介(同)・岸田治(同)
- 11:15 FH-3 **矢作川における土砂移動と河道微地形・底生動物の関係: 研**
○内田臣一(愛知工業大学)
- 11:30 FH-4 **絶滅危惧種コガタカワシンジュガいの再生産効率の低下に及ぼす複合要因の解明: 研・審**
○三浦一輝(斜里町立知床博物館)・石山信雄(北海道立総合研究機構林業試験場)・根岸淳二郎(北海道大学)・伊藤大雪(同)・川尻啓太((株)建設技術研究所)・泉北斗(北海道大学)・井上貴央(同)・中村太士(同)
- 11:45 FH-5 **Hyporheic and benthic characterization of macroinvertebrate communities at multiple rivers with different environmental contexts: 研**
○Md. Khorshed Alam (北海道大学)・Junjiro N. Negishi (同)・Mo Zhengwei (同)・Tomohiro Nakagawa (同)・Shohei Yamashita (同)
- 12:00 FH-6 **石狩川氾濫原における淡水二枚貝フネドブガイ類の分子系統解析: 研・審**
○泉北斗(北海道大学)・根岸淳二郎(同)・Wujunyi(北海道大学)・三浦一輝(斜里町立知床博物館)・伊藤大雪(北海道大学)・町田善康(美幌博物館)・秋山吉寛(国土交通省国土技術政策総合研究所)・福井翔(北海道大学)・渥美圭祐(バドヴァ大学)・小泉逸郎(北海道大学)

12:30~13:30 — 休憩 —

対面発表 9月24日(金)ー2日目ー 13:30～17:30 [会場:4階講堂]

セッションFI 河川植生

- 13:30 FI-1 **ランダムフォレストを用いた景観判読AIの開発と九頭竜川における試行ー航空レーザ測深等の成果物を用いた河川景観モニタリングの実現に向けてー: 研・審**
溝口裕太(土木研究所)・中村圭吾(同)・戸村健太郎(アジア航測(株))・泉田温人(同)・○篠原光礎(同)
- 13:45 FI-2 **航空レーザ測量成果を用いた河川に繁茂する広葉樹の体積推定に関する基礎検討: 研・審**
○手塚透吾(土木研究所)・溝口裕太(同)・斉藤展弘(国土交通省中国地方整備局)・中村圭吾(土木研究所)
- 14:00 FI-3 **河川植生図作成手法の検討: 機械学習による植生分類モデルの汎用性の評価: 研・審**
○宮脇成生(株建設環境研究所)・篠部将太郎(同)・玉井杏(同)・野村大祐(同)・石川和樹(同)・橋本一成(同)・石井正人(同)・木下長則(同)・鈴木研二(日本スペースイメージング(株))・鈴置由紀洋(同)・池内幸司(東京大学)
- 14:15 FI-4 **高水敷を掘削した後の樹林の拡大速度: 研・審**
○川尻啓太(土木研究所)・森照貴(同)・内藤太輔(リバーフロント研究所)・今村史子(日本工営(株))・徳江義宏(同)・中村圭吾(土木研究所)
- 14:30 FI-5 **異なる播種条件における希少樹種ケショウヤナギの種子発芽、芽生えの生残および成長の違い: 研**
助野実樹郎○(株北海道技術コンサルタント)・齋藤敦子(同)・斎藤新一郎(北海道開発技術センター)

セッションFJ 鳥類・哺乳類

- 15:00 FJ-1 **河川の維持管理に伴う希少猛禽類の保全対策について: 研・審**
中村文哉(北海道開発局札幌開発建設部)・倉本洋平(同)・濱口耕平(同)・○滝沢太浩(株エコテック)・笹森健太(同)
- 15:15 FJ-2 **河川は都市の水鳥の主要な移動経路として機能する: 研・審**
○竹重志織(放送大学)・加藤和弘(同)
- 15:30 FJ-3 **遠隔監視カメラを活用した猛禽類環境保全措置の取組事例報告: 研・審**
○漆原強(パシフィックコンサルタンツ(株))・横田和弥(同)・加藤敦子(同)・落合雄介(同)・谷翔子(同)・三塚直美(同)・池田幸資(同)・北川輝久生(北海道開発局札幌開発建設部)・尾野陽子(同)・嶋崎健太(同)・東英俊(北海道開発局札幌開発建設部)
- 15:45 FJ-4 **北海道開発局における自然環境調査データを活用したグリーンインフラ候補地の検討: 研**
○上月佐葉子(パシフィックコンサルタンツ(株))・三塚多佳志(同)・中川考介(同)・谷口睦(同)・足立憲泰(北海道開発局開発監理部)
- 16:00 FJ-5 **土地利用の改変がサケ死体と腐肉食性鳥類との関係性に与える影響: 研・審**
○玉田祐介(株長大)
- 16:15 FJ-6 **レーザ照射式カラス類追い払い装置の開発とその効果検証: 研・審**
○今井健裕(北海道大学)・細川友輔(同)・山田浩之(同)
- 16:30 FJ-7 **河川での哺乳類調査における環境DNA分析の活用の可能性について: 事**
岡村遥(株建設技術研究所)・○井上創(同)・鈴木莊司(同)・紀國聡(同)・高橋賢司(国土交通省北海道開発局札幌開発建設部)・臼田峻曹(同)・宮崎亮直(同)
- 16:45 FJ-8 **設置型バットディテクターによるコウモリ類調査の効率化・高度化について: 事**
岡村遥(株建設技術研究所)・○紀國聡(同)・鈴木莊司(同)・井上創(同)・高橋賢司(国土交通省北海道開発局札幌開発建設部)・臼田峻曹(同)・宮崎亮直(同)

【研究発表会・一般講演内容(オンライン発表)】

○発表者、タイトルの後の研は研究報告、事は事例報告、審は審査対象

オンライン発表 9月23日(木) ー1日目ー 13:30~17:00 [会場:301]

セッションOA 魚類ハビタット・産卵場

- 13:30 OA-1 兵庫県竹野川における農業用井堰の魚道改修効果の検証: 事・審
○坂下奨悟(福井県立大学)・中野光(同)・本江雄晴(同)・田原大輔(同)
- 13:45 OA-2 小規模排水路の落差部における水生生物の縦断的移動の連続性確保に向けた工夫: 研・審
○佐藤大誠(東洋大学)・椎名慧(同)・新田将之(同)・皆川明子(滋賀県立大学)・青木宗之(東洋大学)
- 14:00 OA-3 機械学習によるアユの好適産卵環境の識別方法の開発: 研・審
○大中臨(山口大学)・赤松良久(同)・間普真吾(同)
- 14:15 OA-4 淀川河口域におけるアユ個体群の動態と遡上実態との関連: 研・審
○中筋祐司(京都市産業観光局)・瀬口雄一(㈱建設技術研究所)・竹門康弘(京都大学)
- 14:30 OA-5 河口地形は両側回遊魚の河川加入をどのように変えるか: 研
○満尾世志人(長野大学)・鳥羽乾太(新潟市立坂井輪中学校)・飯田碧(新潟大学)

セッションOB 底生生物

- 15:00 OB-1 春日山原始林における小河川環境と水生動物相の変遷: 研
○平祥和(大阪府立大学/大阪自然史博物館)
- 15:15 OB-2 平地河川のコンクリート河床と自然河床に成立する底生動物群集の比較: 研・審
○太田克哉(愛媛大学)・熊谷悠志(同)・三宅洋(同)
- 15:30 OB-3 ムカシヤンマ幼虫の生息環境の考察と移殖に向けた取り組み: 事・審
○梶原大地(独立行政法人水資源機構)・大崎愛(同)・遠本和也(同)
- 15:45 OB-4 Effect of geological difference on macroinvertebrate assemblages and leaf decomposition: 研
○Janine Tolod(北海道大学)・Junjiro N. Negishi (同)・Nobuo Ishiyama (Hokkaido Research Organization)・Md. Khorshed Alam Tushar (北海道大学)・Mirza ATM Tanvir Rahman (同)・Pongpet Pongsivapai (同)・Gao Yiyang (同)・Masanao Sueyoshi (同)・Futoshi Nakamura (同)
- 16:00 OB-5 Testing the effects of fine sediment on community structure of hyporheic macroinvertebrates: 研・審
○OMO ZHENGWEI(北海道大学)・Junjiro N. Negishi (同)・Md. Khorshed Alam (同)
- 16:15 OB-6 通し回遊魚の集団加入が底生無脊椎動物群集にもたらす影響: 研・審
○川崎敬心(新潟大学)・藤田陽(同)・満尾世志人(長野大学)
- 16:30 OB-7 Eco-Geomorphological Evaluation of the Riverbed Changes of Katsura River in Relation to Low-head Dam Removal : 研・審
○XIAO ENBANG(京都大学)・Yasuhiro Takemon(同)・Tetsuya Sumi(同)・Sohei Kobayashi(Whenzhou University)

オンライン発表 9月23日(木) ー1日目ー 13:30~17:00 [会場:4階講堂]		
セッションOC 鳥類・両生類		
13:30	OC-1	洋上風車による影響低減に向けたオオミズナギドリ のセンシティブティマップ: 研・審 ○鎌田泰斗(新潟大学)・富田健斗(同)・早坂圭司(同)・山本麻希(長岡技術科学大学)・関島恒夫(新潟大学)
13:45	OC-2	風車衝突事故低減にむけたオジロワシ・オオワシの生息適地解析 : 研 ○室拓己(徳島大学)・河口洋一(同)・佐藤雄大(同)・中川元(オジロワシ・オオワシ合同調査グループ)
14:00	OC-3	水田水域における住民による生き物調査の特徴と採捕生物の関係性 : 研・審 ○新田将之(東洋大学)・青木宗之(同)・中島直久(帯広畜産大学)・大平充(東京農工大学)
14:15	OC-4	兵庫県豊岡市祥雲寺および鎌田地区に生息する3種のカエル類の産卵圃場特性 : 研・審 ○中尾祐太(兵庫県立大学)・田和康太(土木研究所)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
14:30	OC-5	利根川下流域の河道内湿地と湿田におけるニホンアカガエル <i>Rana japonica</i> の産卵場所特性の比較 : 研・審 ○田和康太(土木研究所)・中村圭吾(同)
セッションOD 環境DNA		
15:00	OD-1	定量PCR法を利用した水道水源地における カビ臭産生微生物の早期検出手法の開発 : 研 ○土居秀幸(兵庫県立大学)・渡部健(パシフィックコンサルタンツ(株))・池田幸資(同)・大森惇平(神戸市水道局)・戎紫穂(神戸市建設局)・清水武俊(神戸市水道局)・小田琢也(同)
15:15	OD-2	環境DNA分析を用いた佐波川におけるオオカナダモ繁茂要因の検討 : 研・審 ○宮平秀明(山口大学)・宮園誠二(同)・児玉貴央(同)・赤松良久(同)・中尾遼平(同)
15:30	OD-3	神通川における環境DNA調査によるサクラマス遡上実態把握の試み : 事・審 田頭直樹(㈱建設技術研究所)・○渡邊敬史(同)・竹内えり子(同)・越野哲矢(国土交通省北陸地方整備局)・西村友之(同)・木村梨琴(同)
15:45	OD-4	環境DNA定量メタバーコーディングを用いた高梁川水系における淡水魚類相の把握 : 事 ○中尾遼平(山口大学)・齋藤稔(同)・今村史子(日本工営(株))・赤松良久(山口大学)
16:00	OD-5	流域網羅的な水温連続観測および環境DNA調査に基づく魚類の好適水温に関 : 研 ○小林勘太(山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(福岡工業大学)・中尾遼平(山口大学)・齋藤稔(同)・宮園誠二(同)
16:15	OD-6	球磨川における荒瀬ダム撤去後の環境DNAを用いたアユの生息場評価 : 研・審 ○榎本彩香(熊本大学)・児玉紗友里(元熊本大学)・皆川朋子(熊本大学)
16:30	OD-7	魚類全般を対象とした瀬淵スケールでの環境DNA濃度の変動特性 : 事・審 ○小川大介(㈱建設技術研究所)・堀田大貴(同)・海津利幸(㈱建設技術研究所)

オンライン発表 9月24日(金) ー2日目ー 9:15～12:30 [会場:301]				
セッションOE GI・環境保全				
9:15	OE-1	応用生態工学会仙台「仙台湾南部海岸プロジェクト」の活動報告Ⅰ 植物班・物理環境班調査結果(2019年調査)について: 事 ○樋村正雄(いであ(株))・菅野宗武(同)・菅野洋(東北緑化環境保全(株))・上田夏希(パシフィックコンサルタンツ(株))・土井康義(株)建設技術研究所)・佐藤高広(株)復建技術コンサルタント)		
9:30	OE-2	木津川の砂州上の位置による聖牛の地形改変効果の違い: 研・審 ○玉川一晃(京都大学)・竹門康弘(同)・小林草平(温州大学)・角哲也(京都大学)		
9:45	OE-3	深層学習を用いた尾瀬ヶ原湿原の植生予測モデルの開発: 研 ○藤村善安(日本工営(株))・草間俊樹(同)・徳江義宏(日本工営(株))・五十嵐美穂(同)		
10:00	OE-4	グリーンインフラ事業の地域経済活性化への活用手法検討 ～守谷版グリーンインフラの社会的価値の定量化と経済価値分析～: 事・審 ○浅田寛喜(㈱福山コンサルタント)・白土智子(同)・南崎慎輔(茨城県守谷市役所市長公室)・長谷川啓一(もりやグリーンインフラ推進協議会)		
10:15	OE-5	治水のための河川敷利用形態の見直しの可能性 ○岡田久子(明治大学)・Wuximei(同)・倉本宣(同)		
セッションOF 魚類分布				
10:45	OF-1	過去40年間で見られなくなった淡水魚はいるのか: 河川中下流域における緑の国勢調査と河川水辺の国勢調査を用いた比較: 研 ○森照貴(土木研究所)・川口究(いであ(株))・早坂裕幸(同)・樋村正雄(同)・中島淳(福岡県保健環境研究所)・中村圭吾(土木研究所)・萱場祐一(名古屋工業大学)		
11:00	OF-2	平地河川における上位捕食者量の決定要因: 研・審 ○熊谷悠志(愛媛大学)・三宅洋(同)・上田航(同)・井上幹生(同)		
11:15	OF-3	雄物川支川玉川におけるワンド再生後の魚類モニタリング結果の報告: 事・審 ○伊豆凜太郎(パシフィックコンサルタンツ(株))・真木伸隆(同)・鬼久保浩正(同)・上田夏希(同)・三井裕美(同)・渡辺有紀(同)・菊地純(国土交通省東北地方整備局)・野口寛明(同)		
11:30	OF-4	AI画像認識を用いたアユ遡上数調査の効率化 ～長良川河口堰の取り組み～: 事・審 ○田中幹大(独立行政法人水資源機構)・國枝信明(同)・市原裕之(同)・米澤喜弥(同)		
11:45	OF-5	佐渡島の小河川におけるサケ科魚類の生息状況: 研・審 藤田陽○(新潟大学)・川崎敬心(同)・満尾世志人(長野大学)		
12:00	OF-6	成層したダム湖におけるウグイの行動と湖内環境の関係の解明: 研・審 ○長岡祥平(北海道大学)・黒田充樹(同)・上田健太(同)・白川北斗(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・沖津二郎(応用地質(株))・大杉奉功(水源地環境センター)・佐藤信彦(北海道大学)・南憲吏(島根大学)・宮下和士(北海道大学)		
12:30～13:30 ー 休憩 ー				

オンライン発表 9月24日(金)ー2日目ー13:30~17:30 [会場:301]

セッションOG モニタリング技術・評価

- 13:30 OG-1 **見た目の河床環境を高密度・高精度な水深分布から診断する: 事**
○田代喬(名古屋大学)・溝口裕太(土木研究所)・宮川幸雄(同)
- 13:45 OG-2 **水中SfMによる河床表面の粒径計測手法の開発に関する研究: 事**
○東善広(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・水野敏明(同)
- 14:00 OG-3 **UAVに搭載した非冷却型熱赤外センサにより取得した河川水の表面温度と水温との関係: 事**
○丹羽英之(京都先端科学大学)
- 14:15 OG-4 **航空写真測量を活用した森林被害状況分析の試み: 事**
○横田潤一郎(アジア航測株)・池田欣子(同)・長谷川裕太(同)・片渕かりん(同)・入江晃己(同)・坂口智哉(同)・山内圭司(国土交通省近畿地方整備局)
- 14:30 OG-5 **江の川におけるオオカナダモの季節変動に影響を与えうる環境要因の検討: 事・審**
○児玉貴央(山口大学)・宮園誠二(同)・赤松良久(山口大学)

セッションOH ダム湖・ダム下流

- 15:00 OH-1 **三春ダムにおけるオオクチバスの継続的な防除でみられた確認状況の長期的変化: 事・審**
○坂本正吾(応用地質株)・小野田幸生(同)・沖津二郎(同)・中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・大杉奉功(水源地環境センター)・半谷和彦(国土交通省東北地方整備局)・白戸孝(同)
- 15:15 OH-2 **ダム湖におけるリン負荷量と植物プランクトン現存量の関係に与える水質対策の影響: 研・審**
○ZHANG XIAOXUAN(東京工業大学)・GUO ZHONGYU(同)・吉村千洋(同)
- 15:30 OH-3 **残存陸域としての「ダム湖の島」に注目した予察的調査・検討: 研**
○吉川慎平(自由学園最高学部大学)
- 15:45 OH-4 **ダム下流に生息するシマトビケラ科幼虫の脂質割合における季節変化: 研・審**
○輪地紗良(奈良女子大学)・土居秀幸(兵庫県立大学)・田代喬(名古屋大学)・原田守啓(岐阜大学)・竹門康弘(京都大学)・片野泉(奈良女子大学)
- 16:00 OH-5 **ダム下流環境と底生動物群集におよぼす、支川流入と土砂還元の効果の比較: 研・審**
○原直子(奈良女子大学)・片野泉(同)・土居秀幸(兵庫県立大学)・根岸淳二郎(北海道大学)・皆川朋子(熊本大学)・萱場祐一(名古屋工業大学)
- 16:15 OH-6 **江の川浜原ダム下流における底生動物の季節変動: 研・審**
○花岡拓身(山口大学)・齋藤稔(同)・赤松良久(同)・宮園誠二(同)・小林勘太(同)
- 16:30 OH-7 **小瀬川水系弥栄ダム下流における堰堤による通し回遊性生物の遡上阻害状況: 事・審**
○齋藤稔(山口大学)・畑間俊弘(山口県農林水産部水産研究センター)・中尾遼平(山口大学)・赤松良久(同)
- 16:45 OH-8 **河川水辺の国勢調査の有効活用事例 ―長期的な視点で大規模出水による底生動物群集への影響を探る― : 事・審**
○小野田幸生(応用地質株)・沖津二郎(同)・稲川崇史(同)・坂本正吾(同)・塘忠顕(福島大学)・半谷和彦(国土交通省東北地方整備局)・白戸孝(同)
- 17:00 OH-9 **小浜ダム土砂バイパス運用による河道の変化と底生動物の応答について: 事**
小野秀樹(国土交通省中部地方整備局)・岡本明(同)・○鈴木昭彦(株建設技術研究所)・荒木孝之(同)・堀田大貴(同)・森山輝久(同)

【自由集会プログラム】

※各集会の詳細内容については変更する場合があります。

【自由集会：A】**「魚カウンターによる魚類遡上数計測の試みの現状と課題」**

日時： 9 月 22 日（水） 13：00～ 札幌市教育文化会館 3F-305 研修室

【企画】 布川 雅典（寒地土木研究所）、河口 洋一（徳島大学）、権田 豊（新潟大）

【内容】

魚道等を遡上する魚類の個体数を計測するには、トラップ等で捕獲する方法や遡上行動の映像から計数する方法が用いられる。しかし、調査者の労力は大きく、かかる経費も小さない。また、後者であれば夜間や濁水時の計測は難しい。さらには大量遡上個体の長期間の正確な計測は人力では不可能に近い。

本集会では、これらの課題に取り組む手段として使われ始めている自動計測システム（以下魚カウンター）について解説する。また、現在まで演者らが各地で取り組んでいる、異なる魚類や計測場所における計測事例を紹介する。さらには総合討論によって魚カウンターによる計測の課題や発展性について議論したい。

【プログラム】

1. サケカウンターによる北海道苫小牧市勇払川における魚道のサケ移動数
-魚道における大型魚の事例-
布川 雅典（寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ）
2. イワナの湧水河川への遡上数計測-小規模河川における中型魚の事例-
谷口 義則（名城大学）、布川 雅典（寒地土木研究所）
3. 徳島県那賀川におけるアユ稚魚遡上数-小規模魚道における小型魚の事例-
林 哲平（徳島大学）、河口 洋一（徳島大学）、布川 雅典（寒地土木研究所）、茂崎 孝祐（新潟大学）、権田 豊（新潟大学）
4. 小型魚（アユ稚魚）遡上数計測の精度向上
茂崎 孝祐（新潟大学）、権田 豊（新潟大学）、布川 雅典（寒地土木研究所）、林 哲平（徳島大学）、河口 洋一（徳島大学）、
5. ディスカッション：魚道や小規模河川の魚類移動数の自動計測の有用性と課題
司会：河口 洋一（徳島大学）

【自由集会:B】

応用生態工学会 「2019 年台風 19 号災害に対する応用生態工学会災害調査団報告」

日時： 9 月 22 日 (水) 13:00～ 札幌市教育文化会館 4F-講堂

【企画】 中村太士(北海道大学), 関根 秀明(株式会社建設技術研究所)**【内容】**

2019 年 10 月 12 日、日本に上陸した台風 19 号(令和元年東日本台風)に伴い、関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な洪水被害が発生した。この台風に限らず、毎年のように既往最大規模の豪雨が日本列島を襲い、どこかの地域で大規模災害が発生している。このため、行政のみならず国民も、日々の生活の中で近づく温暖化の危機を意識せざるを得なくなっている。

こうした中、国土交通省は 2020 年 7 月「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」の答申において、「河川、下水道等の管理者が主体となって行う従来の治水対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川の流域全体のあらゆる関係者がさらに協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、“流域治水”への転換を進めていくことが必要」とした。

応用生態工学会災害対応委員会では、答申の契機にもなった台風 19 号による災害に対して、生態学、河川工学、地形学など、様々な分野の会員によって、千曲川、多摩川、那珂川・久慈川、東北河川、千葉県 5 グループで災害調査団を結成し、現地調査を交え検討を進めてきた。その結果、治水対策と河川環境の保全を切り離して考えるのではなく、同時に検討しながら、同時に解決する視点が重要として、災害調査団としての考え方を提言として取りまとめた。

この自由集会では、提言の概要を参加者と共有するとともに、グリーンインフラの配置や流域治水で目的とする、安心・安全で健康なより良い地域づくりの真の実現に向けて、これまでの治水計画である目標流量の安全な流下では達成しえない課題に対する今後の展開と方向性について、意見交換することにした。

【プログラム】

- 1) 自由集会の主旨説明～提言の目的とあわせて～(熊県大 島谷 Dr)
- 2) 支川等合流部整備における環境対策(岐阜大 原田 Dr)
- 3) 水害防備林の機能と保全(山梨大 大槻 Dr)
- 4) 水源域農地等からの流出抑制(国環研 西廣 Dr)
- 5) 霞堤や越流堤の機能と堤内地農地等の活用による被害最小化(滋賀県大 瀧 Dr)
- 6) グリーンインフラの流域配置と適応復興への提言(北海道大 中村 Dr)
- 7) 総合討論(コーディネーター 北海道大 中村 Dr)

※時間配分 1) 6) : 5 分、2) ~5) : 各 12 分、7) : 32 分 (計 90 分)

【自由集会：C】

応用生態工学会 「テキスト刊行委員会—河川汽水域テキスト刊行に向けて—」

日時： 9 月 22 日（水） 15：30～ 札幌市教育文化会館 3F-305 研修室

【企画】 乾隆帝(福岡工業大学社会環境学部), 鬼倉徳雄(九州大学農学研究院), 河口洋一(徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

【内容】

応用生態工学会テキスト刊行委員会では、応用生態工学の入門書となるテキストの刊行を企画しており、現在、「河川汽水域における生態系の保全と再生」を対象としたテキストの刊行準備を進めています。

本自由集会では、河川汽水域における生態系の保全と再生についてのテキスト刊行に向けて、これまでの河川汽水域における保全と再生の事例を紹介したうえで、河川汽水域における生態系の保全と再生に関する学術的な知見や技術的な課題を整理し、テキストとして取りまとめる方向性について議論したいと考えています。河川汽水域生態系の保全・再生に関わる課題を整理・議論する機会ですので、実務・研究の多方面から会員の皆様の幅広い参加をお待ちしております。

【プログラム】

1. 応用生態工学会のテキスト企画の趣旨とこれまでのテキストの紹介（河口）
2. 汽水域自然再生についてのこれまでの自由集会の紹介（乾）
3. パネルディスカッション方式での意見収集（司会：鬼倉）

*パネラーは現在調整中です

【自由集会:D】**「河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会」**

日時： 9 月 22 日（水）15：30～ 札幌市教育文化会館 4F-講堂

【企画】 中村太士(北海道大学), 一柳英隆(水源地環境センター)**【内容】**

日本の河川・ダムでは、国土交通省やその他管理者が、流量や水位、水温・水質、生息する生物相（河川水辺の国勢調査）など多くのデータを継続的に取得している。これらのデータを集約して整理することで、個人の取得のみでは成し得ない広域・長期の解析が可能になる。しかし、これらのデータは、河川・ダム管理者が使用する前提で管理されており、広域・長期で利用しようとする研究者にとっては必ずしも利用しやすい形にはなっていない。この意見交換会は、研究者側と河川・ダム管理者との意見交換を行い、両者にとって良い形を探ろうとするものである。

[意見交換コアメンバー]

中村太士（北大）、一柳英隆（水源地環境センター）、大澤剛士（都立大）、鹿野雄一（九大）、国土交通省河川環境課、国総研、土研、水源地環境センター、リバーフロント研究所、河川情報センター、環境省自然環境局

【プログラム】

●趣旨・経緯説明

(水源地環境センター・一柳英隆)

●話題提供 1

データベースのオープン化とライセンス設定（東京都立大学・大澤剛士）

●意見交換

(ライセンス設定について)

●話題提供 2

生物画像データの蓄積とデータベース化（九州大学・鹿野雄一）

●意見交換

(画像データのデータベース化、公開)

●総合的な意見交換

(コーディネート：北海道大学・中村太士)

【自由集会:E】**「2014 年御嶽山噴火以降の河川環境の現状と生物の営み」**

日時： 9 月 23 日 (木祝) 9:30～ 札幌市教育文化会館 3F-301 研修室

【企画】 宇佐見亜希子(名古屋大学), 田代喬(名古屋大学), 野崎健太郎(相山女学園), 松本嘉孝(豊田高専)**【内容】**

日本には 111 もの火山が点在する。その一つである御嶽山が 2014 年に水蒸気噴火を起こし、火山噴出物を含む泥流が濁川および王滝川へと流れ込んだ。日本陸水学会東海支部会では、これらの河川を中心に水文・水質と水生生物の調査研究を開始した。調査目的として次の二つの視点で進めている。①2014 年噴火の水環境への影響はいつまでつづくのか、その終息点についての評価方法を確立する。②火山活動により河川水質の酸性化などの独特な水環境が点在しているため、その特性を把握し火山地域の知的財産の蓄積や利水での水管理者への情報提供をする。

本自由集会では、噴火以降の水文・水質と生物相の変化を紹介する。火山地域とそれにとまなう無機酸性河川に興味を持つ参加者と情報を共有し、他地域の特異的な水環境の現状やその調査結果の地域還元・活用方法についての情報交換、噴火による水環境の影響評価の方法などの意見交換を行いたい。

【プログラム】

I. 趣旨説明

II. 御嶽山噴火以降の河川環境の変化 (3 題)

- i) 御嶽山南麓河川水の水質状況 (松本嘉孝)
- ii) 御嶽山南麓王滝川集水域での水文モデルの構築 (江端一徳, 谷口智雅)
- iii) 火口を集水域に含む河川の底生動物群集 (田代喬)

III. 御嶽山周辺の河川環境や生物の営み (4 題)

- i) 御嶽山周辺のダム直下の特異的な水環境 (宇佐見亜希子)
- ii) 強酸性河川周辺の植物相とキノコ (安井瞭)
- iii) 強酸性河川周辺の湧水たまりにおける糸状藻 Klebsormidium 属の繁茂と溶存無機炭素濃度との関係 (野崎健太郎)
- iv) 強酸性河川周辺の魚類相 (小野田幸生)

IV. 総合討論

【自由集会:F】**「田んぼのいきものをどうやって守っていくか?その5—水田水域における多様な生物の保全と再生—」****日時： 9 月 23 日 (木祝) 9:30～ 札幌市教育文化会館 3F-305 研修室****【企画】** 田和康太(土木研究所河川生態チーム), 佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園), 河口洋一(徳島大学)**【内容】**

第5回目を迎える本集会であるが, これまでの成果の一つとして, 応用生態工学会誌 24 巻 1 号の特集号「田んぼのいきものをどうやって守っていくか?」掲載に繋がった. しかしながら, これまでの集会で議論されていないテーマや対象生物も数多く存在する. 特に水田水域における多種の水生動物にとっても植物の存在は生息場の観点から不可欠だが, これまでの集会では十分に議論できていなかった.

今年度はまず, 水田水域の植物の多様性や現在, 植物に起こっている問題について話題提供いただく. また, 水田水域における生物多様性低下の一因とされる圃場整備や耕作放棄等に対する水生動物保全への取り組みを話題提供いただく. さらに水田水域における外来種問題についてもトピックス的に扱い, 植物と動物の視点から, 現在実施されている保全策のデメリットも含めて田んぼのいきものをどうやって守っていくかを議論する.

【プログラム】

<趣旨説明> 田和康太

<話題提供>

① 「水田に見られる植物はどこからやってきたのか?」

嶺田拓也 (農研機構農村工学研究部門)

② 「熊本県球磨盆地における耕作放棄地の復田とタガメ復活プロジェクト」

一柳英隆 (熊本大学)

③ 「土地区画整理に係る水路環境保全の挑戦～魚と貝を残せるか～」

永山滋也 (岐阜大学)

④ 「利根川下流域の水田域と河道内再生湿地における水生動物群集の特徴」

田和康太 (土木研究所)

<総合討論> 河口洋一 (徳島大学)

(本集会の成果報告と今後の展開も含めて議論)

【自由集会: G】**「海岸生態系と海岸法を考える」**

日時 : 9 月 23 日 (木祝) 9 : 30 ~ 札幌市教育文化会館 4F-講堂

【企画】 企画者 占部城太郎(東北大・生命)、清野聡子(九州大・工学)**【内容】**

気候変動による高潮や地震による津波など、海岸線での防災／減災が大きな課題となっている。一方、SDGs の支柱の 1 つでもある生物多様性や生態系の保全も世界的課題となっており、減災／防災と海岸生態系の保全の両立、あるいは両課題を相乗的に解決していくことが研究者に求められる社会的な責務となっている。海岸法では、海岸を汀線の陸側・海側 50 m を海岸と基本的に位置づけられているため、しばしば本来あるべき海岸生態系を無視せざるを得ない状況下で防災・減災の政策・事業を行われざるをえない状況が続いている。海岸生態系の保全と防災・減災を両立させる取り組みは未だ遅れており、その基盤となる海岸生態系の理解、それに伴う海岸法を含めた課題の抽出が必要である。

そこで、本自由集会では、海岸生態系と海岸法をめぐる諸問題について現状を俯瞰・共有し、応用生態学として取り組むべき道筋を考える契機としたい。

集会では、まず海岸生態系とは何かを松島肇氏にレビューしていただく。それを基盤に、清野氏には日本の海岸の現状と海岸法の問題点を指摘していただく。また、渡辺氏には海岸生態系保全に際しての広く工学的な視点から取り組むべき課題について紹介していただく。最後に、これら「理系」研究者側からの報告・問題提起に対して、海岸法やその周辺領域に関して行政や法的な限界と課題について神山氏に解説していただく。これら講演を海外生態系と海岸法の「問題を知り共有する」機会とし、参加者との質疑応答を通じて理解を深めるための議論を行いたい。

【プログラム】

占部城太郎 (企画者趣旨説明)

講演 1 「海岸生態系を俯瞰する」

松島 肇 (北海道大学北海道大学大学院農学研究院)

講演 2 「海岸管理の見直しの論点—自然地形と生態系に制度を合わせる」

清野聡子 (九州大学大学院工学研究院環境社会部門)

講演 3 「海岸環境をめぐる工学的取り組みと課題」

渡辺国広 (国土交通省国土技術政策総合研究所)

講演 4 「海岸行政と海岸生態系を法的視点から考える」

神山智美 (富山大学学術研究部社会科学系)

総合討論

「新北海道スタイル」安心宣言

私たち主催者は、
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、
「 7つプラス1の習慣化 」
に取り組みます！

1. スタッフのマスク着用やこまめな手洗いに取り組みます。
・マスク着用や手洗い、咳エチケットを徹底します。
2. スタッフの健康管理を徹底します。
・体温測定、健康チェックを徹底します。
・アルコール等の手指消毒剤を用意し、設置します。
3. 会場内の定期的な換気を行います。
・換気設備の運転や定期的に窓を開けて外気を取り入れる等、定期的な換気に取り組みます。
4. 設備、器具などの定期的な消毒・洗浄を行います。
・複数の人が触れるところ(ドアノブ、椅子等)をこまめに消毒します。
5. 人と人との接触機会を減らすことに取り組みます。
・一定の距離(2m 程度)を確保するソーシャルディスタンスに取り組みます。
・間仕切りなどを活用します。
・人数の制限や空席の確保に取り組みます。
6. 参加者にマスクの着用や咳エチケット、手洗い、体調管理、アルコール消毒、また大きな声で会話を行わないよう呼びかけます。
・入場時の検温または体温の聞き取りに取り組みます。
・体調が良くない参加者の方に、参加の見合わせを求める場合があります。
7. 会場内での掲示やホームページなどを活用し、取組を参加者に積極的にお知らせします。
8. 北海道コロナ通知システム(QR コード)の導入や、来場者名簿の作成を行い、来場者の把握に取り組みます。

(主催者名)応用生態工学会

4 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：甲村謙友会長

委員：谷田一三元会長

辻本哲郎元会長

江崎保男前会長

今年度は役員改選年にあたり、本年 6 月 1 日から 6 月 30 日までの期間で、次期役員候補の募集を行いました。この結果、募集期間内に会長候補 1 名、副会長候補 3 名、理事候補 13 名、監事候補 2 名の計 19 名の届出がありました。これを受けて、7 月 14 日に第 2 回次期役員募集・推薦委員会を開催し、届出のあった 19 名全員を候補として受け付けることを決定しました。

また、理事候補については、届出による候補者が 13 名であったため、定数上限 15 名との差 2 名について、委員会として候補者を推薦しました。

以上により、本年 9 月 21 日に開催される第 25 回総会での選出に諮る次期役員の候補者が次のとおり決まりましたので、ご報告します。

+++++

〔次期会長候補：1 名〕（敬称略）

占部城太郎（新任） 東北大学大学院生命科学研究科教授

〔次期副会長候補：3 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

高村 典子（再任） 国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター
フェロー

萱場 祐一（新任） 名古屋工業大学教授

清水 義彦（新任） 群馬大学大学院理工学府教授

〔次期理事候補：15 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

東 信行（再任） 弘前大学農学生命科学部生物学科教授

久保田 勝（再任） 東北電力株式会社顧問

佐川 志朗（再任） 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科教授

関根 秀明（再任） 株式会社建設技術研究所東京本社環境部部長

竹門 康弘（再任） 京都大学防災研究所水資源環境研究センター准教授

藤田 光一（再任） 公益財団法人河川財団河川総合研究所所長

益岡 卓史（再任） 株式会社建設環境研究所技術本部副本部長

赤松 良久（新任） 山口大学工学部社会建設工学科教授

沖津 二郎（新任） 応用地質株式会社地球環境部応用生態工学研究所所長

北村 匡（新任） 共和コンクリート工業株式会社副社長

関島 恒夫（新任） 新潟大学農学部生産環境科学科教授

知花 武佳（新任） 東京大学大学院工学系研究科准教授

東城 幸治（新任） 信州大学大学院理工学系研究科准教授

平井 秀輝（新任） 一般財団法人水源地環境センター理事長

柳川 晃（新任） 独立行政法人水資源機構理事

渡邊 康玄（新任） 北見大学社会インフラ工学コース教授

〔次期監事候補：2 名〕（五十音順、敬称略）

渡辺 綱男（再任） 一般財団法人自然環境研究センター上級研究員

西 浩司（新任） いであ株式会社国土環境研究所環境技術部技師長

5 理事会・幹事会報告

5.1 第 111 回理事会 (Web 会議) 報告

第 111 回理事会 (Web 会議) が本年 7 月 2 日に開催されました。

なお、これに先立って、6 月 2 日 (水) に第 89 回幹事会が Web 会議において開催され、第 111 回理事会に付議する事項について審議が行われました。

第 111 回理事会での審議事項と審議結果は次のとおりです。

1. 2020 年度 (令和 2 年度) 決算報告

- ・収入額が支出額を 1、506、655 円上回り黒字決算となった。
 - ・この収支結果をもたらしたのは、新型コロナの感染拡大により札幌大会が一年延期されるなど、学会活動が大きな制約を受ける状況下で、収入、支出とも予算額に対して大幅に減額となったが、収入決算額の 5、081、640 円の減額に対し、支出決算額が 6、588、295 円の減額となったことによる。
 - ・収入決算額が減額となった主な要因は、賛助会員会費の納入の遅れがあったこと、大会の参加費が延期のためゼロ、地域イベントの減で参加費、助成金が少なかったことによる。
 - ・支出決算額が減額になったのは、会誌編集費の本来払うべきものがまだ払っていないこと、会議が対面からメールや Web に変更になったこと、委員会関係費もイベントの中止、調査の減、会議が対面からメールや Web に変更になったこと、海外派遣費は海外派遣が中止になったこと、大会費も通常の大大会が延期となり Web 研究発表会を開催したのでその差額が発生したことによる。
 - ・一方、支出決算額で増額になったものは、HP 整備費その他費用で、内訳は Web 会議・Web 研究発表会等の開催のためのソフト・資機材の整備に要した費用である。あとは札幌大会の会場費用の前払いが、予定していなかった分として増額になっている。
 - ・収支差額の中には、会誌の請求書の到着が遅れ未払金が生じたことや、賛助会員の会費の未収金が生じたことから、今期の正味財産額は 144、608 円の増額に止まっている。賛助会員の未収金については、大半が 4～5 月で納入されている。
 - ・特記事項ということで、Web 会議・Web 研究発表会等の開催のためのソフト・資機材の整備内容と費用を示している。
 - ・助成金・寄付金について、河川財団からの助成金は 2020 年度の助成であったが、研究期間を 1 年延長するという形でそのまま預かって今年度支出するということとなっている。
 - ・(事務局から追加説明) HP 整備費 CPD 発行システムは昨年 12 月に行われた Web 研究会に参加された方の CPD を発行するシステムで、今度の札幌大会でも使えるものである。
- との報告について 2020 年度決算報告は承認された。

2. 災害調査団派遣に伴う災害調査費について

- ・大規模災害発生後、学会として迅速に緊急調査等を実施するためには、災害調査団派遣に必要な予算を確保する必要があるが、支出の見込みが不確実な予算を年度当初に計上することは難しいため、災害調査引当資産として 100 万円を設けて、災害調査団派遣の際はそれを取り崩して災害調査費に充当することで対応している。
- ・しかし、同じ年度内に複数の大規模災害が発生した場合、そのルールでは対応が難しいということがあるあるので、理事会において災害調査団の派遣を決定した場合には、特に引当資産という形を取ることなく、流動資産の預金の中から一調査団当たり 100 万円程度までの範囲で予算措置できるようにしたい。
- ・予算案は総会の承認を得る必要があるので、予算書の中に内容を記載して総会の承認を得ておく。

災害調査引当資産は今回で廃止する。記載案としては、「災害調査団の派遣に伴う災害調査費については、大規模災害が発生し、理事会において災害調査団派遣が決定された場合は、一調査団当たり 100 万円程度までの範囲で災害調査費を予算措置できる。」とした。運用については基本的には今の災害調査費に関するルールを踏襲し、支出費目は災害調査費とし、予算措置については理事会の承認を得て決定する。調査団に会計責任者をおき、会計処理を行う。

・毎年度の予算案は、災害調査費を計上せずに、収支均衡を基本として作成し、その支出が必要になった場合は赤字決算となるが、原資は繰越金という整理としたい。予算案は総会の承認事項であるということ意識した内容とした。

との報告について災害調査団派遣に伴う災害調査費は承認された。

3. 事務局次長の選任報告／事務局長の退任・選任

(1) 事務局次長の選任報告

学会規約細則第 6 条第 1 項の規定に基づき、2021 年 4 月 1 日付けにて、事務局長を補佐する事務局次長をおくこととし、事務局次長に住谷昌宏（元独立行政法人水資源機構荒川ダム総合事業所長）を選任したことが報告された。

(2) 事務局長の退任・選任

学会規約細則第 6 条第 1 項の規定に基づき、青江 淳事務局長の退任と後任の事務局長には住谷昌宏事務局次長を選任すること、また、就任日については 2021 年 7 月 3 日付けとすることが承認された。

6 2021 年度行事の経過と今後の予定

2021 年度(令和 3 年度)行事経過と今後の予定

4. 1	2021 年度(令和 3 年度) 開始
4. 3	企画運営委員会 (メール会議)
4. 7	第 13 期次期役員募集・推薦委員会 (第 1 回) (Web 会議)
4. 14～20	第 110 回理事会 (メール会議)
5. 19	ニュースレター92 号発行
6. 2	第 89 回幹事会 (Web 会議)
7. 1	ELR2022 大会実行委員会 第 1 回委員会 (Web 会議)
7. 2	第 111 回理事会 (Web 会議)
7. 14	第 13 期次期役員募集・推薦委員会 (第 2 回) (Web 会議)
7. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 24-1 発行
8. 10	第 89 回幹事会 (Web 会議)
8. 11	ニュースレター93 号発行
8. 31	第 112 回理事会 (Web 会議)
9. 21	応用生態工学会 第 25 回総会
9. 21～25	応用生態工学会 第 24 回大会
12 月	幹事会
12 月	ニュースレター94 号発行
1 月	会誌「応用生態工学」Vol. 24-2 発行
2 月	理事会
2 月	ニュースレター95 号 発行
2 月～3 月	2022 年度海外学会等への派遣員の募集
3. 31	2021 年度(令和 3 年度) 終了

7 事務局より

7.1 事務局長が変わりました。

第 111 回理事会において、青江淳事務局長が本年 7 月 2 日をもって退任されることに伴い、本年 7 月 3 日付けで後任の事務局長として住谷昌宏（元水資源機構荒川ダム総合事務所長）を選任することが承認されました。

青江前事務局長と同様、よろしくお願いします。

7.2 住所等の連絡先が変更となった場合は連絡をお願いします

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail: eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。 よろしくお願ひいたします。

7.3 退会の申し出は学会ホームページの退会フォームからお願いします

退会の申し出については、退会フォームのほかに、事務局へのメール、電話、年会費払込請求書の通信欄に記載等でなされています。事務局の見落とし等の原因の元になりますので、できるだけ退会フォームまたは件名に「退会の連絡」等明示したメールによる申し出をお願いいたします。

7.4 会員数および LEE 購読者数

2021 年 7 月 31 日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数
名誉会員	9 名	増減なし	1 名
正会員	870 名	増 30 名	※65 名
学生会員	86 名	減 9 名	6 名
合 計	965 名	増 21 名	72 名
賛助会員	44 法人 (63 口)	増 1 法人 (増 1 口)	

※賛助会員 1 社を含む